

会議結果報告書

令和5年2月20日

会議の名称	令和4年度 第2回志木市地域医療連絡協議会
開催日時	令和5年2月16日（木）午後1時30分～2時25分
開催場所	志木市役所 大会議室3-3
出席委員	岩崎智彦委員、鎌田昌和委員、蓼沼寛委員、加藤広久委員、相原大和委員、外村光康委員、宮本日出委員、西野博喜委員、鳥飼香津子委員、高澤淳仁委員、根岸麻紀委員、瀧仁孝委員、河村龍二委員、宮利昌委員、大熊克之委員、島村直人委員、的場裕行委員、佐々木大司委員、渋谷幹彦委員、飯田恵子委員、寺嶋勝浩委員、大野広幸委員、清水裕子委員 (計23人)
欠席委員	椎木雅和委員、中村修委員、平田大輔委員、菊池宏子委員 (計4人)
説明員氏名	渋谷幹彦（長寿応援課長）、清水裕子（子ども・健康部参事兼健康政策課長）、大野広幸（健康増進センター所長） (計3人)
議題	(1) 令和4年度事業の進捗状況及び令和5年度新規事業について (2) その他 骨粗鬆症リエゾンサービスについて
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	安形喜代美、菅原美里（健康政策課） 山田美穂（健康増進センター）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 題

(1) 令和4年度事業の進捗状況及び令和5年度新規事業について

◆各所属の事業内容等について各担当委員より報告した。

〔長寿応援課〕 在宅医療介護連携推進事業

フレイル予防プロジェクト

〔健康政策課〕 各種健康づくりに関する計画策定に向けての準備

子宮頸がん検診未受診者対策事業

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

重複・頻回受診者、重複・多剤服薬者対策事業

特定健康診査受診率、特定保健指導実施率

特定健康診査受診勧奨事業

〔健康増進センター〕 産婦健康診査助成事業

第二期志木市自殺対策計画策定市民意識調査

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種

多胎妊婦への妊婦健康診査助成事業（R5 新規）

第二期志木市自殺対策計画策定（R5 新規）

伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金の一体的
実施事業（R5 新規）

◆質疑応答及び意見

Q1-1.

（当日質問）HPV ワクチンが4月から9価ワクチンにかわるが、1回目
2回目に4価ワクチンを接種した方は、3回目4回目はどうなるのか。

A1-1.

国では、原則1回目2回目と同じものを受けてくださいとしているが、
9価ワクチンを受ける場合は、医師と相談したうえで接種が可能となっ
ている。

Q1-2. 請求書はどうなるのか。

A1-2. 医師会と契約したうえで、金額が確定するので、それに沿った形で
作成する。

Q1-3. 4価と9価では金額が異なるが、金額は把握しているか。

A1-3. 9 価ワクチンは、4 価と比べ金額は倍近いと把握している。

Q2.

(事前質問) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について、高齢者に対する個別的支援 a.b.c.について具体的に教えてほしい。

A2.

a. 低栄養状態の者に対して、管理栄養士による食事を中心とした保健指導を実施している。低栄養状態の者は BMI 20 以下、質問票で一日 3 食食べていないと回答、体重が前年比 - 2 キロ以上減少している者を抽出している。

b. 口腔機能低下が見られる者に対しては、短期集中型の口腔訪問サービス、口腔に関する一般介護予防事業に案内している。対象者は、質問票で硬いものが食べにくい、汁物等でむせることがある、一日 3 食食べていないと回答、体重が前年比 - 2 キロ以上減少している者を抽出している。

c. 早めに介入したほうが良いと思われる者については、フレイルが心配な者に対しては、からだづくり教室や百歳体操、フレイルチェック、一般介護予防事業を案内している。対象としては、質問票で歩く速度が遅くなった、この一年間で転んだことがあると回答し、かつ運動習慣のない者としている。

認知機能低下が心配される者については、IADL を把握し、専門医の受診勧奨や認知症集中支援事業を案内している。対象としては、質問票で周りの人から物忘れがあると言われる、今日が何月何日かわからないことがあると回答した者としている。

社会参加が乏しい者については、百歳体操やサロンへの参加を案内している。対象としては、質問票で社会参加が乏しい、週一回以上外出していない。普段家族や友人との付き合いがない、身近に相談できる人がいないと回答した者としている。

Q3.

(事前意見) 長寿応援課の志木市在宅医療介護連携代表者会議について、会議の中の、いろは薬局さんのコロナ関係の講話、研究用と医療用の違いや結果の解釈方法など、とても勉強になった。今後、一般の方々もコロナの抗原検査を自己で行う方が増えると思うので、広報などを通じて、市民に周知できるとよいと感じた。

A3. 抗原キットによる検査の陽性者で症状のある方については、12-64 歳

の方は自分で陽性者登録をしてもらっている。症状のない濃厚接触者については、PCR 検査等無料化事業の対象となり、薬局等で抗原検査キットを購入し陽性者登録を行ってもらっている。5月8日からはコロナの分類が見直され5類になるとのことなので、5類になると無料検査やパルスオキシメーターの貸出も廃止となると聞いている。今後は、国の方針が決まり次第、ホームページ等で周知していく予定である。

(2) その他

骨粗鬆症リエゾンサービスについて

◆事務局より報告

◆委員より意見

委員：中核の病院が音頭をとってやらないといけませんが、よほど意識が高くなければ実施していないのが現状である。具体的には、お薬手帳へ記載する形で、かかりつけ医が状況を把握するだけでも変わってくるのではないかと。厚労省でも二次骨折予防の大切さを示しており、地域でも何か対策が出来たらと思う。中核病院にも参加いただければ、市民の二次骨折予防の効果も大きい。この地域はお薬手帳の発祥の地であるからこそ、そういったものを活用し進める方法があればと思う。

会長：お薬手帳は、医師も目にするところなので、まずはそこからというのも一つの案だと思う。

委員：紹介状を通して年に1、2回フォローしてもらえばできることなのでは。リエゾンサービスとまではいかないが、病診連携の中で、病院から診療所へ具体的に簡単な治療方針を記載したものが紹介状と一緒に来れば、全体的な流れが分かって良いと思う。医師会の腎臓内科の部会で、腎臓の悪い人をクリニックから病院の腎臓内科へ送る連携シートを作成した。作成に1～2年かかり利用は始まったばかりだが、簡単な経過を書いてすぐに送ることができ、今後の活用が期待されている。リエゾンサービス的な取組を行政でやるのは難しいと思う。整形外科の先生方で話し合ってもらい進めるのが良いのではないかと。

4 閉 会